

【第4回】御影公民館及び清水消防署御影分遣所建設町民検討委員会開催報告

開催日時：令和8年9月28日（月）19時～20時30分

開催場所：清水消防署 御影分遣所

1. 開 会

事務局 庶務 吉田

2. 委員長挨拶

細田委員長

3. 議 題

（１）「施設の導入機能②基本方針と配置場所」について

ー本日の議題とスケジュール確認ー

（事務局・コーディネーター）

これまでの検討経過は次のとおり。第1回検討委員会は、御影地区・施設の現況について自由に意見交換を行った。第2回は、移住者へのヒアリングを通じて御影の良さを整理し、「多世代が交流できる施設」というまちづくりの方向性を確認した。第3回は、それをもとに導入機能のたたき台を示し、支所（60～90㎡程度）や多目的ホール（200人規模）など、一般的な規模感を示してご意見をいただいた。

本日第4回の主題は、これまでの整理をもとにした施設の大きなレイアウト（配置イメージ）を確認し、条件をさらに絞り込むこと。あわせて、住民説明用のニュースレターを作成し、本日終了後、速やかに御影地区の住民に配布することを確認する。

基本構想の議論は本日でおおむね終了し、一つに絞り込むことはせず、「この方向性で一旦考える」という位置づけで10月を目途に取りまとめる方針。その後は令和9年度基本設計、その後実施設計・工事着工と進む予定だが、基本計画段階で議論が整わず時間を要する場合は、この限りではない。第5回では、今回までの議論を踏まえた「基本構想案」を最終確認する。

3. 前回第3回検討委員会（8月24日）までの振り返り

前は消防からの説明を中心に、次の点が確認された。

- ・消防車庫・訓練スペースの必要性、支所・公民館機能と共有できる部分（会議室、トイレ等）はできるだけ共有する方向性を示した。
- ・日常的に人が集まる場をつくるため、カフェだけでは不十分であり、テナントやチャレンジショップ（地域の方が作ったお菓子・農産物・手作り品などの販売）のような小規模な出店スペースも検討すべきという意見が出た。
- ・民間事業者との連携の必要性。（連携の程度・方法は今後の議論課題）

・防災備蓄については、公共施設だけで全住民分を補う訳ではなく、平常時の利便性と災害時対応を組み合わせる必要性が出された。

・基本機能（支所・消防・多目的ホール・交流ロビー）の共通認識。既存施設（改善センター、世代間交流センター等）や屋外広場との組み合わせ方が課題となった。

・複合施設の位置づけについて、「公民館」より「コミュニティセンター」に近いのではないかという意見が出た。（補助金・制度上の制約を含め、行政で検討が必要）

・交流ロビーの具体像（カフェ・図書スペース・チャレンジショップ等）について意見が出た一方で、人口規模・集客力の観点から店舗誘致は難しいという慎重論も出された。

4. 本日の意見交換

本日は（1）導入機能の最終確認、（2）配置イメージ（A案・B案）、（3）運営の考え方の3点について順に意見交換を行う。

4-1. 機能の確認

（事務局・コーディネーター）：多目的ホール・支所・交流ロビー・消防に加え、備蓄庫や再生可能エネルギーが加わり、大きく7ページの基本機能の4つとなる。何か加えることがあればご意見をいただきたい。

（委員）：今の会議室的なものは、このイメージの中ではどの部分に入りますか。

（事務局・コーディネーター）：多目的ホールを間仕切りできるようにすることで、会議室として考えています。改善センターにもそういった機能があるので、その有効活用を考えると、支所には当然会議室が必要だと思いますが、あえていくつか会議室を設けるよりは、多目的ホールを間仕切って使用するイメージです。

（委員）：この建設の計画の予算は決まっていますか。

（事務局・コーディネーター）：まだ予算は決まっていません。

（委員）：予算が決まっていないと、何を入れられるんだという話になってしまいます。何を収めるかという検討をしていく方がいいのではありませんか。

（事務局・コーディネーター）：そうやってしまうと先に予算ありきになってしまうので、もう少し条件を絞りたいと思います。そうしないと、図面が描けません。今ここで皆さんが言うようなレイアウトを決めてしまうと二点、三点と案が増えてしまい、いつまでたっても決まっていきません。もう少し条件を基本構想として狭めていきたいというのが正直なところです。機能はこういったものがあるよと言っていただけたら、それに合わせたボリューム感を次の段階（基本計画）で出していきたいと思います。

（委員）：ここで言っている多目的ホールというのは、今の公民館で言えば大集会室ということですか。

（事務局・コーディネーター）：そうです。

（委員）：そうすると大集会室としての利用があった場合、他の会議は改善センターの会議室を使えばいいと思いますが、将来的に改善センターを改築・修繕しながら使っていくのか、それ

ともある程度の機能を新しい施設につけておいて改善センターをどうするか考えるのか、その辺りはどうですか。

(事務局・コーディネーター)：第2回でその議論が少しありました。現段階では、既存の施設は残していく、修繕しながら使っていくという意見だったので、それを基本に考えています。ですので会議室を複合施設の中にいくつも入れるということにはならないかなと思います。これは皆さんが「新しい複合施設の中に会議室をもう少し入れて、改善センターの会議室は改修時にやめてしまおう」という考え方も当然あり得るので、非常に難しいところです。

(委員)：一番経費がかからないのは、改修しながら改善センターを使っていくことだと思うのですが、そうすると半永久的にいけるものなのですか。

(事務局・コーディネーター)：他の施設との機能分担を考えていくと、非常にパズルのようになっていきます。

(委員)：これは以前の話し合いの繰り返しになるかもしれませんが、多目的ホールについて、200人規模の人が使える規模ということで、例えば大集会室を使っている年間の利用量はどのくらいでしたか。こども園の発表会であれば改善センターを使うなり、学校開放を借りることもできるのではないかと。公民館機能の中に多目的ホールをどうしても置かなければならないのか、本当に多目的ホールは必要なのか、ということを申し上げたいです。多目的ホールがなくなれば、その分、支所機能など他の要望の規模の中に入れていけるのではないかと思います。

(事務局・コーディネーター)：芸術文化祭や、講演会で一回180人くらい入ったもの、お祭りの雨の日の代替会場、それくらいです。大きな違いは土足で行き来できるという点が一番大きいです。

(委員)：土足のまま行けるエリアがあることは大きなメリットだと思っています。うちはお寺ですが、最近はお葬式が減っていて、帯広市内の葬祭ホールを使う理由を聞くと、土足のまま入れるという点が大きいようです。一度靴を脱がなければいけないというのは、高齢の方にとって大変だと思います。

(委員)：この検討委員会は、町議会の一般質問があったり、多くの傍聴の方が来てくれている。私たちが検討委員として担っていることが全部後々のことに関わってくるので、果たすべき責任はすごく重大だと思います。本当に必要なものは作らなければならぬし、「今の公民館にあるから同じものが必要なんだ」という安易な考え方で本当に作っていったいいものなのか。今後、行政で基本計画を作って予算が出たとき、それが例えば25億円かかるとなったら、補助金など活用できるのか、それとも町が「15億円くらいに抑えてください」と言ってくるのかよく分かりませんが、多目的ホールは本当に必要なのかを繰り返し申し上げたいです。

(事務局・コーディネーター)：展示、お遊戯会やカラオケの発表、消防の出初式後の表彰式などを考えると、多目的ホールはある程度必要だとは思いますが。改善センターは舞台設備をセットするのも大変で、音響を含め公民館的な使い方に改修すること自体に難があります。大きなイベントは御影小学校の記念行事で使って以来行ったことがなく、使い勝手の面が大きいと感じています。

(委員)：50年前の人口を調べましたが、清水町全体で約1万4千人、御影で約4千人いました。今は現状約半分になっています。当時作ったものと全く同じものを作る意義が分かりにく

いです。財政負担は倍になり、建築費も上がっています。一方で町は補助金などを使って実質負担を下げることはできます。この人口サイズ、かつ、これから目減りしていく人口サイズにどこまで合わせるかの基準を持つことが必要。

過去に作ったものと同等のものを作るとオーバースペックになりうると思います。何を減らせるのかという減築案を考えることも必要だと思います。必要なものを入れるのは簡単ですが、結果として建設金額が大きくなり、その後の修繕費（10年後の外壁・屋上の修繕等）も増えていきます。欲しいものはあればあるほどいいと思いますが、その負担は長く住む私たち自身が背負うことにもなります。予算感が見えないままでは判断が難しいと思います。

（事務局・コーディネーター）：今まで（3回目まで）は、既存施設は改修して使い、新たにできる複合施設は人口減少に見合っただけ少し規模を減らすけれど基本はあまり変わらない、という方向で来ていました。ただしこうやって議論していくと、多目的ホールが本当にいるのかという話になってきているので、「ではやめましょう」というのは難しいですね。

（委員）：町として例えば実際投資がどれくらいまで見込んでいるのかが見えた方が、正直考えやすいです。枠が決まれば何をやれるか決められるので。

（事務局・コーディネーター）：町に代わって言うと、もう少し枠を狭めて考える条件を整理してもらった方が、多分ご検討されやすいと思います。

（委員）：本当に御影地区は高齢者ばかりになってきていて人口もすごく減っていつの間にか今日出てきたものを作って、後々「過剰だったのでは」といういろんな意見が出るようなものを作ってはまずいので、多少は5年後、10年後のことも見越した中で、御影地域にとって必要なものを建てなければならないと思います。これを自分のお金で作るんだったら、「これもいらない、あれもいらない」となると思います。国からの補助金と町のお金だからみんな好きなことを言えるのかもしれませんが、本当に自分のお金を出したらどうなるのかな、というところがあります。

（事務局・コーディネーター）：前回お示しした中では200人くらい、180人の催し物があったというお話があったので、200人くらい入る面積が必要ではないかというお話をいただいています。私どもで算出したのが220㎡程度です。これは施設全体の3分の1ぐらいの面積になっています。これがゼロになることはないと思います。会議室が減ると当然施設は全体的に小さくなりますし、建設コストも下がっていくというのは分かっていることだと思います。

（事務局・コーディネーター）：秋祭りや御影フェスで太鼓を持ち込むとなると、一回靴を脱いで太鼓を運んでというのは本当にできるのかなと思ってしまいます。

（委員）：それはそれに従ってやらなければならないことで、それに合わせて対応可能です。

（事務局・コーディネーター）：多目的ホールの必要性をめぐっては、「200人規模で土足利用できるホールがあった方が使いやすい」という意見と、「改善センターの体育館を活用すれば代替できる」という意見の両論が出た。一方で、将来の人口規模や責任を見越した負担を懸念する意見も強く、本日は結論を出さずに両論を記録するにとどめる。

（事務局・コーディネーター）：多目的ホールは土足で入れるホールとして基本機能に位置づける一方で、事業費の状況を見ながら規模を調整することで一旦整理します。改善センター・世代間交流センターは修繕しながら継続利用する方針を改めて確認。

4-2. 配置イメージ（A案・B案・C案）

（委員）：配置の例で言うと、公民館・消防署があって、消防署の出入りが駐車場側になってしまうと、消防はいつ何時出動しなければならない状態になるか分かりません。イベントなら駐車場を全部開けてくれと言えますが、火災や救急で出動するときに「建物から何十メートル開けて残ったスペースでやってくれ」ではイベントはできません。入り口を全て公民館と同じ方向に向けて、林になっているところを全部駐車場にするか、裏の大きな駐車場を出入り口にするか。後者だとイベントでは利用できなくなってしまう。

（事務局・コーディネーター）：いつ出動指令があるか分かりませんので、消防車が車庫から道路に出ていくまでの最低限の動線だけは常時確保して、バリケードを建てるなどしてイベントをやっていただくのが一番合理的だと考えています。新得町の屈足支所・消防が駐車場一体型で整備されており、同じような形でその場所でイベントをされていると聞いていますので、そういったイメージで考えています。

（駐車場利用ルール・一方通行などについて、複数の委員から具体的な懸念が示されたが、消防署長からは「消防車が出られる道だけ確保できれば、規制を張るなどしてイベントは可能」との回答。）

（委員）：本日既にある案は、駐車場側に新施設を想定していますが、東側、旧テニスコート用地に建設できないかと思っています。そうすれば新しい建物ができた後に旧施設を壊すという順序にできると思います。入り口がちょっときついかと思って、今はこちら（駐車場側）にしているだけです。そうすれば今の駐車場も使いながら、消防が出るときも影響が少ないと思います。そういった一つの案としてどうかと思ひまして。

（事務局・コーディネーター）：今の施設を使いながら、使っている間にテニスコート側に建てれば、解体して引っ越しが一回で済むということですね。

（委員）：消防は車両搬入の都合上1階に必要ですけど、公民館機能は高齢者の利用が多いので、改善センターのように2階と階段がある形は避け、平屋にすべきではないでしょうか。面積が大きくなるのであれば、消防を2階建てにすればいいと思います。

（事務局・コーディネーター）：車庫は1階に置かなければならないという制約があります。できればですが、消防団待機室は1階にあった方が団員の利便性が非常に高いです。先日新得町屈足消防を視察したところ、車庫のすぐ横にあり、動線的に非常に楽だと感じました。車庫と全部つながっており、職員側からも消防団側からも車庫に出られます。

（事務局・コーディネーター）：A案・B案に加え、本日提案されたC案（テニスコート活用案）を含めた3案を基本構想に並記し、詳細は基本計画段階で詰めることで整理する。

4-3. 運営について

(事務局・コーディネーター)：行政が全てやるパターン、民間企業に委託するパターン、地域でそういった組織を作るパターン、いくつかあると思いますが、ご意見をお願いします。

(委員)：民間でやってもらえる企業があれば、それがベストなのかもしれません。

(委員)：イメージとしては、多目的ホールだけではなく、施設運営全体、若しくは、イベントをする人たちの運営ということですか。

(事務局・コーディネーター)：いろいろ考え方があると思います。支所は時間になったらシャッターを閉めて、あとは自由に使える施設を管理していくという使い方もあり得ます。行政がやらないのであれば、土日でも夜9時までとか柔軟に使えると思います。ただしそこを運営していくので、指定管理のように行政から支援を受けて運営するかはこれからの話ですが、大きな方向性だけ決めておけば、そういった検討も入れられるかなと。

(委員)：方向性を決めても、やる人がいなかったら難しいと思います。そういう運営方法もありますという程度に留めて、町に提案するという程度で良いかと思います。

(事務局・コーディネーター)：皆さんにやれと言っているわけではないので、「そういう方法もありますよ」という程度に留めていただいて構いません。個人的な見解ですが、多目的ホールの利活用を進めようと考え、行政じゃない方がいいと思います。地域で協議会を作ってやるパターンもあれば、民間企業に任せるパターンもあり得ます。その方が利用頻度は高くなると思います。

結局は皆さんが負担することになるので、できる限り負担の少ない形で運営するのがベストだと思います。内容が良ければ町の事業者でも入れると思います。

(委員)：そもそもこの施設を建てるだけでもお金がかかるわけで、指定管理をすれば以前は出していない管理費用がプラスでかかります。それを捻出してまで、町がこの施設を民間に管理させる施設にするのかどうかという点もあります。スペックも見えていない中で、どこがやるかを決めるのは難しいと思います。

個人的には、地域の人たちが入り込んで、まちづくり会社のような形でやるのが一番いいだろうと思っています。外から来て地域のことを何も分からない状況でいきなり運営するのも、地域の思いを無視する形になる気がします。指定管理に出すのであれば一定の条件は必要だと思います。人手不足の現状（シルバー人材センターの人手不足など）を踏まえると、アクティブシニアを雇用するという発想も人材確保の面で難しさがあり、指定管理がビジネスとして成立するのも容易ではないと感じています。民間の立場から見ても、この規模感での運営・指定管理は正直難しいところがあり、今後の課題として残ると感じています。

(事務局・コーディネーター)：基本構想のまとめとしては、こういった考え方もあるので検討していきます、という程度に留めておきたいと思います。運営は行政が全て行う形ではなく、地域での運営を視野に入れつつ条件次第である旨を基本構想に記載することで一旦整理します。

【第4回】御影公民館及び清水消防署御影分遣所建設町民検討委員会

開催日時:令和8年9月 28 日(月)19 時 00 分～20 時 30 分

開催場所:清水消防署 御影分遣所

出席委員 :

細田委員長、赤堀副委員長、菅野委員、山方委員、五十嵐委員、川端委員、永田委員、
~~後本委員~~、長谷川委員、大久保委員、宮間委員

事務局 :

御影支所 太田支所長(事務局長)、吉田次長(事務局庶務)、大津主査

清水消防署 三好署長(事務局次長)、横山御影分遣所長、山川庶務担当主幹

企画課 鈴木課長

建設課 山田課長、小笠原課長補佐、野口建築係長

コーディネーター:株式会社 KITABA 酒本

傍聴人 :6人